

ちば地区女性ネットワークの活動支援

～コロナ禍でも新たな取組にチャレンジしました！～

1 活動のねらい

ちば地区女性農業者ネットワークは、27名の会員で活動しています。女性農業者が組織活動を通して、農業及び農家生活に関する知識を習得し、経営に参画することは、農業経営の発展につながります。また、地域内の女性農業者との交流を図ることも重要です。

そこで、コロナ禍の中でネットワークづくりを再構築するとともに、組織活動の活発化を図るための、新たな取組を支援しました。

2 課題の背景

ちば地区女性農業者ネットワーク会員のうち8名が農業委員や農業研修の受入れ、食育活動に取組んでおり、地域農業に貢献する活動をしています。

しかし、既存の女性組織は会員が固定化しており、経験の長い世代が高齢で退会したことによる会員の減少も進んでいます。そこで、新たな研修会の企画や直売会の参加などにチャレンジして魅力的で活力ある組織活動を支援するとともに、地域で活躍が期待される女性農業者の発掘が必要でした。

3 普及活動の経過・結果

(1) 研修会の開催による知識・技術の習得

研修会の開催は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から集合による研修を自粛してきました。しかし、会員が集まって研修会を開催し、女性農業者の交流を深めることが必要であると考え、役員会で研修内容や会員が参加しやすい開催時期の検討を重ね、6月・11月・2月に研修会を開催しました。

「ストレッチ体操」では、健康運動指導士の指導のもと体の状態を確認し、体の悪いところを発見しながらストレッチによって改善できることを学びました。「農作業安全講習」では、千葉県農業者総合支援センターの協力を得て学習動画やVR体験で女性農業者でも多く利用される刈払い機などの事故事例から家族で取組む農作業安全について確認できました。

また、会員からは「研修会が開催できて良かった」という感想が多



写真1 健康第一！～ストレッチ体操

く、コロナ禍でも感染対策を講じて研修会を実施することが知識・技術の習得や交流促進に効果的であると改めて確認できました。

(2) 他地域の女性農業者や関係機関と連携した新たな取組

新たな取組として、「ちば農業女子マルシェ2022」や「農林総合研究センター公開デー」で会員自身の農産物や加工品を販売しました。

販売活動を通して地域の農産物や女性農業者の組織活動について紹介することができました。

会員からは「女性農業者が行っている活動や地域の魅力を発信できて良かった」との感想が多く、「各地域からの出品物も勉強になった」との意見がありました。

一方、実際の対面販売では、販売することの難しさを実感し、今後自身の販売力の向上のために商品開発や販売方法の改善に取り組む動きが見られました。

(3) 若手女性農業者との交流

農業実践力向上研修に参加し、若手女性農業者とともに作業の効率化やリスク軽減のための手法の1つである「5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）」の考え方を学びました。グループワークでは先輩女性農業者として農作業の改善事例の紹介や経営参画に向けた意見交換ができました。

この研修会では、農業者が普段行っている身近な作業でも改善が容易で、整理整頓は改善の入口、まずはできるところからやってみるという動機づけと作業場改善の意欲がみられました。さらに、会員相互の交流や仲間意識が醸成され、1名の新規会員の加入にもつながりました。



写真2 地域PR～農業女子マルシェ

4 今後の課題

女性農業者が交流する機会を設定し、組織の活性化と組織運営を通したリーダーや若手会員の加入促進を支援します。

また、組織活動を通して地域農業の魅力を発信し、女性が活躍できる場の拡大を支援します。

5 担当者 市原グループ ◎染谷 肇、矢内 雅楽子
千葉・習志野グループ 今井 亜希子
八千代グループ 小塚 玲子、武田 藍

6 協力機関 市原市、JA 八千代市